

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号	16S3056	院生氏名	松尾 まき
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	看護職のワーク・ライフ・バランス調整力と首尾一貫性 (SOC) が離職意向に与える影響		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究の目的は、看護職のワーク・ライフ・バランス (WLB) 調整力と首尾一貫感覚 (SOC) が離職意向に与える影響を明らかにすることである。看護職自身が WLB を調整できる力を評価できる看護職の WLB 調整力尺度を開発し、WLB 調整力と SOC が離職意向に与える影響を明らかにするために縦断研究を行った。</p> <p>研究 1 では、WLB 調整力を明らかにするために質的分析を行い、次にワーク・ライフ・バランス調整力 (striving for work-life balance ; S-WLB) 調整力尺度の開発及び信頼性・妥当性の検討のために、尺度原案を作成し、看護職 380 名を対象に調査を行った。標本妥当性 KMO=0.8、探索的因子分析で 2 因子 11 項目が得られた。確証的因子分析では GFI0.93、AGFI0.89 RMSEA0.66 を認め、尺度全体の信頼係数は、0.78 であり、S-WLB 尺度の適合度は許容範囲であり、信頼性・妥当性は概ね確保できた。研究 2 では、研究 1 で開発した S-WLB 尺度を用いて、看護職 2,239 名を対象に、質問紙調査を行った。6 か月後に追跡可能であった 975 名の離職意向を測定し、重回帰分析を実施した。その結果、看護職の離職意向の影響要因は「WLB 調整力」「自身が働く病院は離職率が高いという認識」「仕事に見合った給与を得ているかの認識」「オープンな話し合いができる職場かどうかの認識」であった。SOC は離職意向の影響要因として選択されなかった。</p> <p>本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認 (16-Ig-29、16-Ig-124、17-Ig-47) を受けて実施しており、倫理的に問題はなかった。</p> <p>本研究により、6 か月後に与える離職意向の影響要因として明らかになった「WLB 調整能力」は、唯一自己で調整を可能にするものであり、「WLB 調整能力」向上が離職意向を軽減させる可能性が示唆された。今後の看護職の離職意向を軽減する支援にむけて意義ある知見を提示した研究と評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>初回審査会 (11 月 27 日) を遠隔システムでキャンパス間をつなぎ開催した。口頭試問では、論文の構成、研究の背景、統計的処理について質問を行い、ほぼ適確に回答できたが、研究疑問と目的、方法、結論の展開、および力点がわかりにくいことや文章表現、研究の枠組みの記載等、一部不十分なところもあり、追加説明や修正および論文構成の再編を求めた。</p> <p>12 月 24 日に修正論文が提出され、的確に修正されていることを 3 審査員で確認した。</p> <p>3. 合否結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (看護学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 世良 喜子</p> <p>副 査 赤居 正美</p> <p>副 査 杉原 素子</p>		